

李登輝先生会見記

現代の「プレンダー・ジョン」

拓殖大学客員教授・本会理事

藤井 徹喜

平成十七年三月二十三日、台湾は桃

園県大溪にある別荘に李登輝前総統をお訪ねした。一行代表は宮崎正弘さん、産経新聞OBの高山正之、花岡信昭の両ベテラン・ジャーナリストの末席を汚して、小生が同行させていた。小雨煙る中を午前十一時前に別荘着。SPもいて、さすがに前総統の身辺警護は厳重である。

前の訪問客が少し長引いたせいか、我々は少々バスの中で待つ事になった。

李先生は、玄関に出て、大きな笑顔で小生ら一行を迎えて下さった。よく日焼けされた顔は、いかにも健康そうである。小生が李登輝先生にお目にかかるのは、これが三度目。一度目は淡水の台湾総合研究院で、二度目は台北

市内の国賓ホテルであった。私は李登

輝先生は、世界史の中の巨人であると確信している。その方にお会いするとなると、やはり緊張する。

接客用の大広間に通された。そこで嬉しい発見があった。書家の鈴木利男さんの献呈した屏風一対が、李先生のソファアの両側に鎮座していたのである。

向って左が確か「夏草や兵どもが夢の跡」、右が「荒海や佐渡によこたふ天河」であった。言う迄もなく芭蕉の名句。自然、人情、歴史の一致した蕉翁の傑作である。実はこの屏風一対、小生が曾て鈴木利男書伯よりお預りし、その名代として台湾へ空輸して李先生に献呈する役を仰せつかったもの

であった。この折、この一対に加え、『奥の細道』所収の五十一句にそれぞれ絵画を付したものの、計百二枚の色紙をも献呈させて頂いたのであった。

その事を申し上げると、前総統は和やかに「鈴木利夫様に宜しくお伝え下さい」と小生に伝言されたのであった。

応接間での話は、自ずと三月十四日に中共が公表した「反国家分裂法」に及んだ。前総統のお話は、概ね以下のようなであった。

「あんなものは、台湾とは何の関係もないんだ。私が総統の時にすでに内戦は解消しているんだよ」

「あんなものを出して、世界中から非難ばかり受けている。損な事だと分っていないながら、やらざるを得ない。これ（反国家分裂法）は、強さの表れではなく、弱さの表れなんだ」

「胡锦涛というのも、大して能力のある人間じゃない」

別荘地下の書庫を拜見させて頂いた。英文・中文よりもやはり日本文の



桃園・大溪の李登輝前總統の別荘にて(右より、筆者、宮崎正弘氏、李登輝前總統、曾文惠夫人、高山正之氏、花岡信昭氏。3月23日)

書籍が一番多いようだ。岩波文庫だけでもおそらく千冊は下らないのではないか。アトランダムに手にとった岩波文庫二、三冊いずれにも傍線や書き込みがあったのには驚いた。

別荘に隣接のカントリークラブのクラブハウスで、昼食をご馳走になりながら、李登輝学校の講義は、午後一時過ぎまで続いた。私がかねてから抱いていた疑問を、李先生に直接たずねる機会に恵まれた。それは、先生のおいて、武士道とキリスト教がどのように結びついているのか、という疑問であった。李先生は、最近名誉神

学博士号を授与され、その記念講演を行なった事に言及された『日台共栄』第七号、「私は私でない私」(参照)。
そして次の様に言われたのが

印象的であった。

「ふつうの人は、この世があつて、あの世がある。現世で良く生きれば、天国にゆけると考える。だけど私はそれは考えない。あの世とこの世は別じゃあないんだ。全てをこの世でやり切る。思いっきり自分の力を出して、理想の為に生きる。その為にはキリスト教が一番いいのです。若い頃に色々迷つて悩んだけれどね。思いっきりやるにはキリスト教が一番いいんだよ」

何とも強烈な信念にして思想である。深い内的体験が普遍化する事によって、こういう思想として結実したのである。別の表現をするならば、これはクリスチャン的武士道というよりは、武士道的キリスト教であり、禅的キリスト教である、と思つた。新渡戸稲造の真姿がそこにある様であつた。日本人には、天皇であり民族共同体で十分かも知れないが、武士道の忠誠の対象により普遍的理想を求めると、キリスト教にたどり着くという道も、理

解可能である。

中川宋淵老師に「不二見えてあの世この世の若菜摘む」の句があつた。

三島由紀夫の話が出た。宮崎正弘さんからの質問であつたかと思う。先生はこうお答えになつた。

「三島由紀夫はたしかに偉い。しかし、ああいった行動を皆に見習えといつても無理でしょう。だから私は『武士道』を解題』を書きたいと思つたのですよ」
また「日本人を世界に分つてもらう為には、武士道と併せて芭蕉の美の世界を紹介する必要があるのです、これも是非やりたい」常に日本の為も考えて下さっているのである。

西洋にプレスター・ジョン伝説というものがある。欧州キリスト教世界がイスラム教の脅威に脅えていた中世、イスラム圏の後方、アジアの地にクリスチャンの聖王がおり、キリスト教世界を救ってくれるという伝説である。李登輝先生こそ、まさに現代のプレスター・ジョンなのではないか。